

平成28年度後期学校関係者評価書

南アルプス市立八田中学校

＜学校関係者評価委員＞

室田 直樹（学識経験者、学校評議員）
清水 秀幸（学識経験者、学校評議員）
穴水 汎（八田地区青少年カウンセラー、学校評議員）
小林 京子（民生主任児童委員、学校評議員）
穴水 健二（平成28年度八田小学校PTA会長）
齋藤 亮（平成28年度八田中学校PTA会長、学校評議員）
神宮寺静徳（八田小学校後援会長）
鶴田 理恵（八田中学校スクールカウンセラー）

1 教職員の自己評価について

- ・前期に比べて否定的評価が減少したことは、職員会議を含め個人の枠を超え職員全体にコンセンサスが得られたからであろう。課題を詳らかにすることで浮かび上がってくることも多いと思われるが、学校力を高めていってほしい。
- ・前期学校評価結果を職員会議等で話し合い、後期に向けての改善点の確認のもと、今後とも目標意識を持って取り組みをお願いしたい。「報告、連絡、相談」は、とても大切なことだと思う。
- ・自己評価分析により、「組織的に改善」に取り組まれていることは、理想的であると考える。

2 学校生活に関する生徒アンケートについて

- ・評価内容が向上したからといって気を緩めず、取り残された少数の抱える悩みにも是非対面してほしい。先生方の努力は承知しているが、更なる飛躍を期待する。
- ・自主学习ノートの活用について、学年により差があることを考慮し、その活用方法の検討をお願いしたい。学力の向上は見受けられる。
- ・2年生は潜在的能力が高く魅力的な学年だと聞いている。他学年と比べ辛目の評価をしているが、高い志の表れかもしれない。分析の価値ありと考える。
- ・後期アンケートでは、AB評価が80%以上となり、先生方の努力が表れていると思われる。2学期の学校行事により、生徒間の人間関係や教職員の一体感が深まり、大きく改善された結果だと思う。
- ・生徒たちの満足度は高く、特色ある学校、部活動、合唱については、生徒たちも意識を持って頑張っている様子が伺える。また、80%を下回る項目について、教職員が課題を明確にして取り組んでいこうとされる意識も素晴らしい。

3 保護者アンケートについて

- ・任意提出ではここまでの回収率を上げることはできなかったはずだ。保護者も先生方の意気込みを肌で感じ取ったことと思われる。学校と保護者は対峙するものではなく、共に子供の成長を願い手を携える存在である。これからも弛まぬ歩みをお願いしたい。

- ・アンケートの提出率がアップしていることは、学校・先生方・生徒への関心が高く話す機会も増えていることだと思う。
- ・提出率の高さそのものが学校に対する評価だと思われる。
- ・少数意見の中に極めて重要な改善策のヒントが隠されているのではないか。分析の価値ありと考える。
- ・学校行事が生徒の成長や学校生活に役立っていると考えている保護者が98%いることは、学校行事そのものが充実しているのだと考える。生徒、保護者、教職員間の信頼関係や一体感が感じ取れる。
- ・「いじめ0」を目指して教職員が取り組んでいこうとされる意識向上を、継続してほしい。

4 次の項目についてお気づきの点がありましたらお願いします。

(1) 学校運営について

- ・何と言っても「わかる授業づくり」が肝要である。補助教材の作成は良しとしても、教科書を持たない教師の存在は認められない。
- ・地域住民との開かれた関係についての話し合いの場を設け、意見交換をしてみてもどうか。
- ・PDCAは回転率を上げることが極めて重要である。CAをいかに機能させるかがポイントであると考えます。
- ・これからも高いモチベーションを持ち、組織力でより良い学校運営をお願いしたい。
- ・先生方が、日々、家庭との連絡をはかりながら学校運営に取り組み、後期はさらに肯定的評価が伸びた。特に、「合唱、部活動、応援」の集団活動に生徒たちが積極的に取り組み、地域とも連携している様子が伺える。

(2) 教育課程について

- ・校内研究を核として、職員会議等でも教職員共通の理解を得られる方途を構築していくことが大切である。管理職の舵取りも今まで以上に求められている。お互いに切磋琢磨することが大切である。
- ・教師、生徒、保護者がベクトルを合わせることは重要である。共通認識がモチベーションを高め良好なコミュニケーションを構築する。
- ・集団と個の両方を配慮してということは非常に難しいと思われるが、日々先生方が工夫や努力をされていることを感じる。アンケート結果にもあるように、「先生が評価してくれる」と感じ取っていることは何よりである。

(3) 生徒指導について

- ・悪い芽を教師が摘むというのではなく、理想を言えば生徒同士の良くなろうとする力を育てていくことが大切である。一人ひとりの力は微弱でもまとまれば大きな力を結集させることができる。全てがそうとはいかないが、遅々とした歩みに期待する。
- ・学年ごとに特徴があるといわれているが、影響力のある「個」の存在が大きいのではないかと。「個」のコントロールが必要だと思われる。

- ・現代社会において様々なタイプの生徒が在学する中、これからも報告、連絡、相談を大切にし、個性を最大限に引き出す指導をお願いしたい。
- ・様々な問題を抱えた生徒たちの変化をとらえ、保護者と連絡を取りながら日々変化する生徒の様子を学校全体で共有し対応されている。生徒アンケート結果からも、その成果が感じられる。ただ、いじめに関しての2年生の100%だった肯定的評価が下がり、今後も気を配ってきめ細やかな対応をお願いしたい。

(4) 特別活動について

- ・学習活動においては、生徒がヒーローになる活動である。下準備等大変だと思うが継続して頑張ってもらいたい。
- ・これからも、指導者と生徒との関係、指導者自身の自己管理（時間管理等）について話し合うことが必要である。
- ・各行事は、生徒が変わる機会であるとともに教師も変わる良い機会であると考えている。
- ・進路学習や校外学習の取り組み、事前学習の中で、生徒たちが意欲的に取り組み多くの事を学び、頑張っている様子が伺える。部活動、委員会活動も盛んに行われており、子どもたちが役割や意識を持ちながら取り組んでいると感じられる。また、学園祭での取り組みも、縦割りでの活動を中心に生徒主導でされており、後輩が先輩と触れ合う良い機会にもなっている。今後も八田中学校の伝統として続けていってほしい。

(5) 特色ある学校について

- ・一小一中という特殊な縛りがある中で、特色ある学校づくりに邁進させていることに敬意を表したい。合唱活動や全校応援等を通じ、仲間づくり、人づくりに尽力していただきたい。
- ・良好に評価されていると思われる。今後とも指導をお願いしたい。
- ・「守るべきもの」と「変えるべきもの」を明確にし、「変化」に迅速に対応していくことが重要である。
- ・八田中学校の合唱を聞くと、素晴らしい取り組みをしていることがよく分かる。また、自主学習ノートの取り組みが、自分の成果につながっていると思えるよう、その手立てを構築してほしい。

(6) 開かれた学校について

- ・保護者はもちろんの事、地域からの信頼を得られるように情報発信を続けていってほしい。
- ・学校に来てもらう工夫をする必要がある。また、地域の催し、行事に生徒もボランティアとして参加させてみてはどうか。
- ・見られること（関心を持たれること）は、人を成長させる効果がある。
- ・広報活動を充実させ、多くの方に来校していただくよう取り組みをお願いしたい。
- ・学校行事に対して、保護者のみならず祖父母や兄弟も含め一家で参加されたり卒業生も来るなど、多くの方が学校に足を運んでいると感じます。

(7) 学校生活全般

- ・継続は力なりというが、登校や下校途中の生徒たちからの挨拶をよく受ける。先生方の諦めない粘り強い指導があつてのことだと思う。
- ・被災地の子どもたちから地域を守る意識が芽生えたそう。子どもたちを守るのは当然だが、子どもたちが地域を守るという意識を植え付けてみてはどうか。
- ・「学校が楽しい」「授業がわかる」「やればできる」を感じていることが、子どもたち一人ひとりにとって大切なことだと思われる。また、携帯電話については、生徒だけでなく庇護者にも意識してほしい。

5 成果と課題（来年度に取り組むべき点、継続すべき点について）

- ・教職員、保護者に加え地域住民の三位一体の見守りによって、学校力は向上していくものと思われる。小さくまとまるのではなく、多少の弊害があつても門戸を大きく広げていくことで、学校の信頼度は確実に上がる。資料提供等先生方の労苦は大きいと思われるが、是非継続をお願いしたい。
- ・先生、生徒とも各自の目標を持ってP D C Aサイクルに取り組んでいくことが必要かと思う。
- ・小中一貫教育の目的と効果を地域、保護者に周知し深化させることが必要だと思う。
- ・学校関係者評価委員を小中P T A理事まで増やし、より多くの意見を吸い上げるほうが良いのではないかと。
- ・それぞれの項目での成果や課題はあると思うが、先生方と生徒、保護者が同じ教育課題に対して評価するというこの方法は、お互いのギャップにも気づき、さらに問題点も把握しやすくなると思われる。今後も一層の精進をお願いしたい。

6 その他お気づきの点について

- ・P D C Aサイクルにおいて、Cの中身についての全教職員の共通理解を得ることと、それに基づいてのAアクションをどのように起こすか、肝要なのは「実効性」であると思われる。中途半端にならないよう、一人ひとりが教育のプロとしての自覚を持ち、停滞することなく生徒の育成に力を注いでほしい。
- ・私自身「八田中学校はいい学校である」と日々感じる。生徒一人ひとりと全体とのバランスを取りながら関わっていくことは大変だが、よく努力されていると感じる。これからも使命感を持って取り組んでいただきたい。